

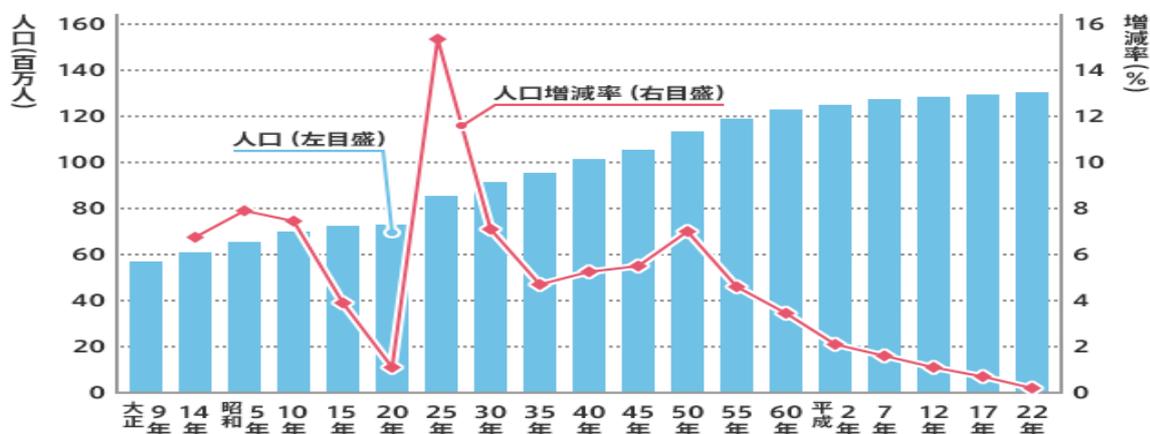
## 《参考》 平成 22 年国勢調査の結果から ～ 全国 ～

\* 総務省統計局が公表している平成 22 年国勢調査の『人口等基本集計結果』『移動人口の男女・年齢等集計結果』『従業地・通学地による人口・産業等集計結果』の概要を参考に作成しています。

### ◇ 平成 22 年 10 月 1 日現在,日本の人口は？

平成 22 年 10 月 1 日現在の人口は, 1 億 2805 万 7352 人, 第 1 回国勢調査 (大正 9 年) から 90 年間で 2 倍以上になりました。

#### 人口の推移—全国 (大正 9 年～平成 22 年)

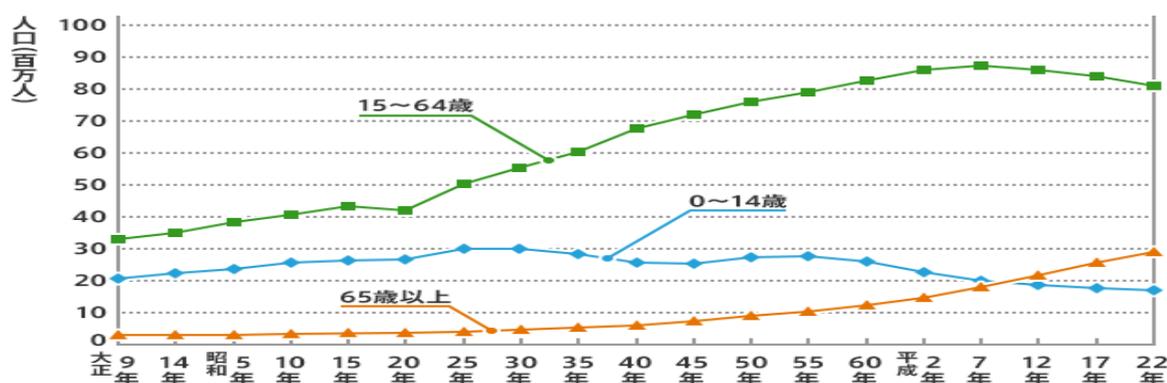


### ◇ 子どもや高齢者の数は？

15～64 歳の生産年齢人口は, 平成 7 年をピークに減少傾向にあります。15 歳未満 (年少人口) が減少する一方, 65 歳以上 (老年人口) は増加しており, 少子高齢化の進展が見られます。

年 齢 区 分	15 歳未満	15 歳～64 歳	65 歳以上
人 口 (千人)	16,803	81,032	29,246
総人口に占める割合	13.2 %	63.8 %	23.0 %

#### 年齢 (3 区分) 別人口の推移—全国 (大正 9 年～平成 22 年)



◇ 人口が多い市区町村又は少ない市区町村は？



順位	多い市区町村		少ない市区町村	
	市区町村名	人口（人）	市区町村名	人口（人）
1位	東京都特別区部	8,945,695	東京都青ヶ島村	201
2位	横浜市	3,688,773	東京都利島村	341
3位	大阪市	2,665,314	東京都御蔵島村	348

\* 仙台市の人口は 1,045,986 人で、12 位です。

◇ 人口増減数（平成 17 年～22 年）が多い市町村又は少ない市町村は？

順位	増加数の多い市町村		減少数の多い市町村	
	市町村名	増加数（人）	市町村名	減少数（人）
1位	東京都特別区部	456,042	北九州市	△16,679
2位	横浜市	109,145	函館市	△15,137
3位	川崎市	98,501	いわき市	△12,243

\* 仙台市の人口増加数は 20,860 人増で、全国で 13 番目に多い増加数です。

◇ 人口増加率（平成 17 年～22 年）が高い市町村又は低い市町村は？

順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	増加率（%）	市町村名	増加率（%）
1位	三重県朝日町	35.3	奈良県野迫川村	△29.5
2位	東京都御蔵島村	19.2	高知県大川村	△23.6
3位	茨城県守谷市	16.4	北海道占冠村	△23.4

\* 仙台市の人口増減率は 2.0%で、224 位です。

◇ 年齢（3 区分）別人口の割合が高い市町村又は低い市町村は？

① 0～14 歳人口

順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	割合（%）	市町村名	割合（%）
1位	富山県舟橋村	21.8	群馬県南牧村	4.3
2位	沖縄県多良間村	21.8	群馬県神流町	4.9
3位	三重県朝日町	21.1	奈良県川上村	4.9

② 15～64 歳人口

順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	割合 (%)	市町村名	割合 (%)
1 位	東京都小笠原村	75.7	群馬県南牧村	38.5
2 位	東京都青ヶ島村	72.0	福島県金山町	38.8
3 位	千葉県浦安市	71.9	徳島県上勝町	39.4

① 65 歳以上人口

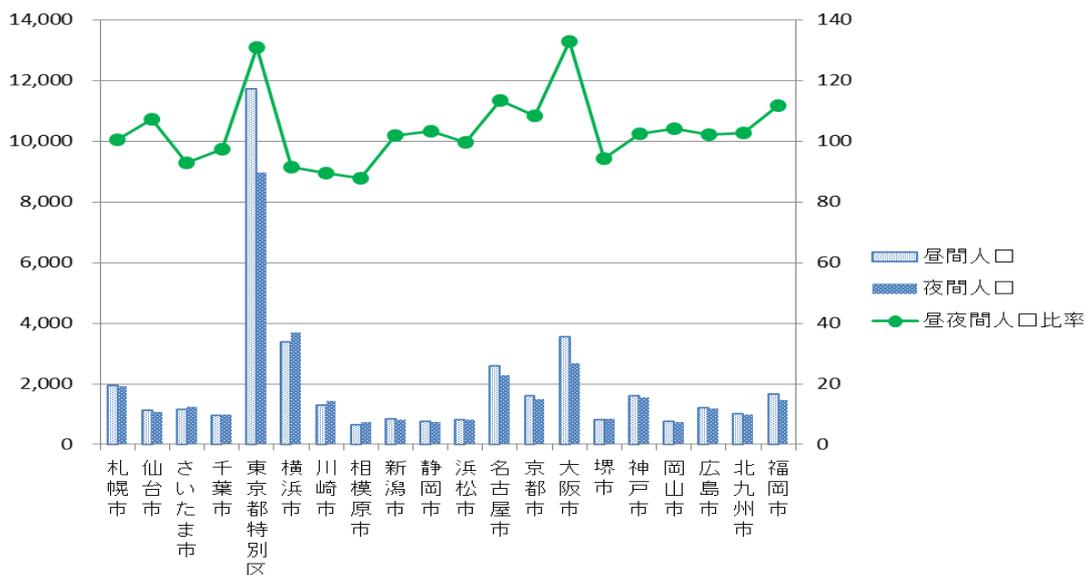
順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	割合 (%)	市町村名	割合 (%)
1 位	群馬県南牧村	57.2	東京都小笠原村	9.2
2 位	福島県金山町	55.1	東京都青ヶ島村	10.5
3 位	長野県天龍村	54.1	千葉県浦安市	11.7

◇ 昼夜間人口比率が高い市区町村又は低い市区町村は？

\* 昼夜間人口比率…夜間人口 100 人当たりの昼間人口

順位	昼夜間人口比率が高い市区町村		昼夜間人口比率が低い市区町村	
	市区町村名	昼夜間人口比率	市区町村名	昼夜間人口比率
1 位	東京都千代田区	1738.8	宮城県七ヶ浜町	65.0
2 位	大阪府中央区	591.9	大阪府豊能町	65.8
3 位	東京都中央区	493.6	千葉県栄町	69.2

昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率－20 大都市（平成 22 年）

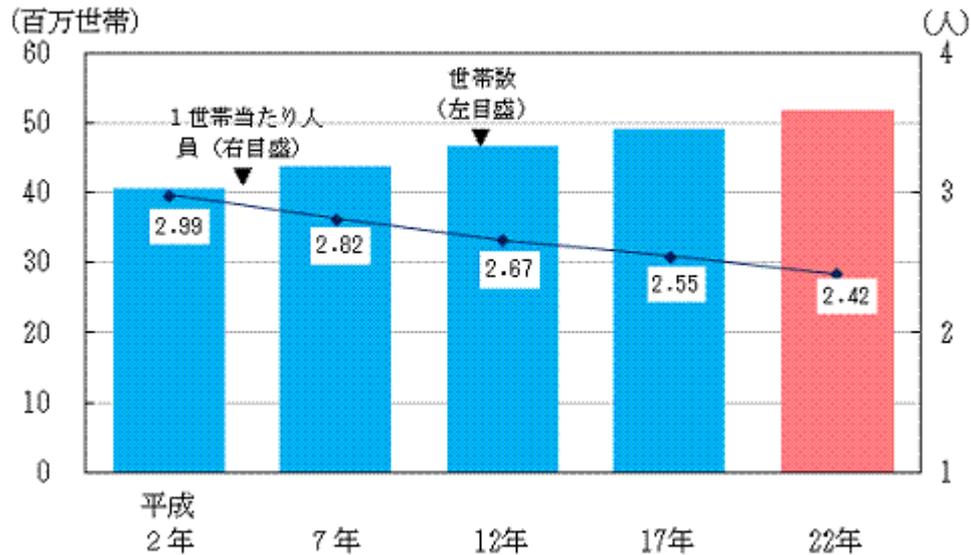


## ◇ 一般世帯数・1世帯当たりの人員は？

平成22年国勢調査によると、一般世帯数は5184万2千世帯となり、調査開始以来初めて5000万世帯を超えました。一般世帯の1世帯当たりの人員は2.42人となっています。

一般世帯数の推移を平成2年以降についてみると、一貫して増加している一方、一般世帯の1世帯当たり人員の推移をみると、一貫して減少しています。

一般世帯数及び一般世帯の1世帯当たり人員の推移－全国（平成2年～22年）

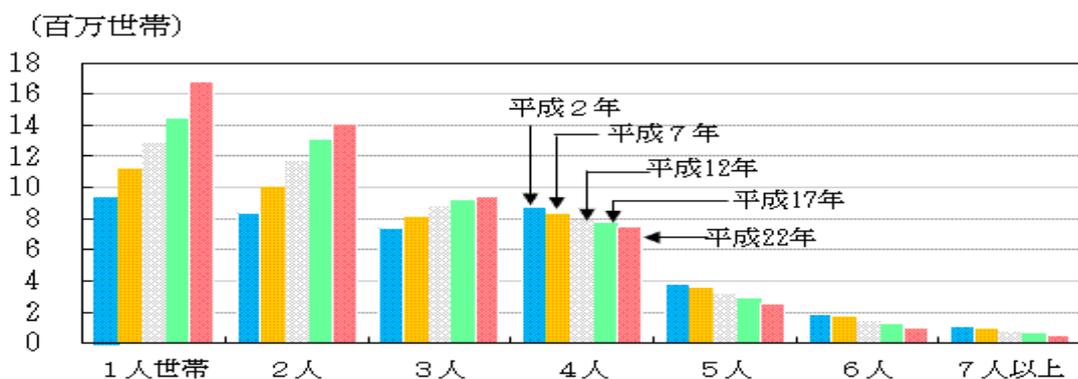


## ◇ 世帯の人員構成は？

一般世帯を世帯人員別にみると、1人世帯が最も多く、一般世帯の32.4%を占め、3世帯に1世帯の割合となっています。また、世帯人員が多くなるほど世帯数は少なくなっています。

世帯員が3人までの世帯は増加傾向で、4人以上の世帯は減少傾向になっています。

世帯人員別一般世帯数の推移－全国（平成2年～22年）



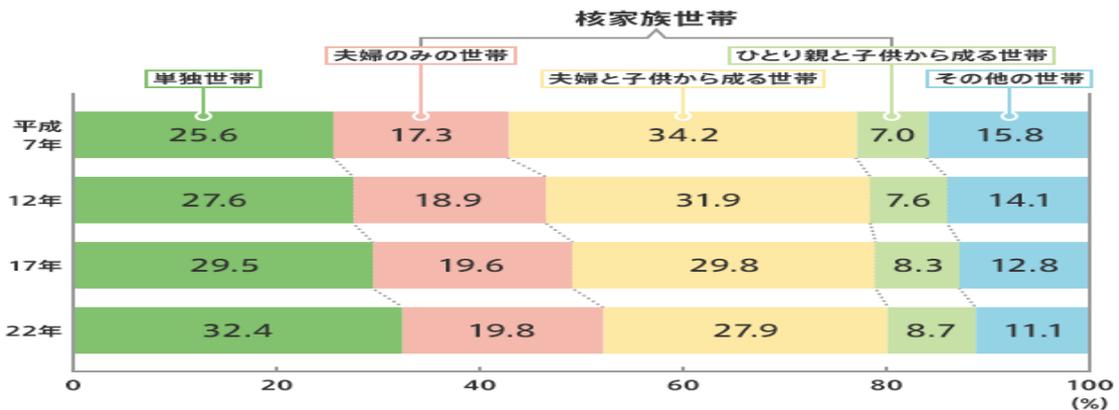
◇ 1世帯当たりの世帯人員が多い都道府県又は少ない都道府県は？

順位	多い都道府県		少ない都道府県	
	都道府県名	世帯人員(人)	都道府県名	世帯人員(人)
1位	山形県	2.94	東京都	2.03
2位	福井県	2.86	北海道	2.21
3位	佐賀県	2.80	鹿児島県	2.27

◇ 一般世帯の家族類型の変化は？

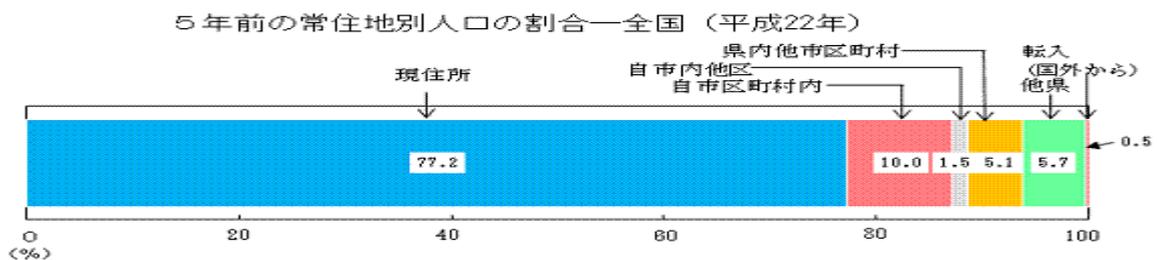
単独世帯の割合が最も多い家族類型となっており、夫婦と子どもから成る世帯の割合が低下傾向となっています。

一般世帯の家族類型別割合の推移（平成7年～平成22年）



◇ 5年前に住んでいた場所から住所を変えた人は？

総人口の2割を超える人が住所を移動しています。（割合は総人口から5年前の常住地が「不詳」の人を除いて算出）



注）平成23年調査から、5歳未満の者についても、出生後みだん住んでいた場所を5年前の常住地とみなして、集計している。

## ◇ 移動人口の割合が高い都道府県又は低い都道府県は？

\* 移動人口…5年前に住んでいた場所から住所を変えた人

順位	割合が高い都道府県		割合が低い都道府県	
	都道府県名	割合 (%)	都道府県名	割合 (%)
1位	東京都	27.5	秋田県	16.0
2位	沖縄県	26.5	山形県	16.7
3位	北海道	26.4	福井県	17.2

## ◇ 人口の転入の割合が高い都道府県又は低い都道府県は？

他県又は国外からの転入は、東京都が最も多くなっています。

順位	割合が高い都道府県		割合が低い都道府県	
	都道府県名	割合 (%)	都道府県名	割合 (%)
1位	東京都	10.1	北海道	2.8
2位	千葉県	8.4	秋田県	3.6
3位	神奈川県	8.4	新潟県	3.7

## ◇ 持ち家に住む世帯の割合が高い都道府県又は低い都道府県は？

住宅に住む一般世帯<sup>(\*)</sup>に占める、持ち家に住む世帯の割合(持ち家率)は、61.9%(3159万4千世帯)となっていて、前回(平成17年)より0.2ポイント低下しています。

(\*)住宅に住む一般世帯数は、一般世帯のうち住宅以外(寄宿舎・両や病院・学校・旅館・会社・工場・事務所など)に居住している世帯を除いたもの。

順位	割合が高い都道府県		割合が低い都道府県	
	都道府県名	割合 (%)	都道府県名	割合 (%)
1位	富山県	78.3	東京都	46.6
2位	秋田県	78.3	沖縄県	49.6
3位	福井県	75.7	福岡県	53.7

